

第57回プログラミング・シンポジウム開催に際して

戦後70年、ENIACが作られてから70年になる。最初の電子計算機ABCはもう3年程まえ、前の戦争の最中である。日本はあの戦争に負けてから70年戦争しないですんできたが、ことしの秋に安保法制案が可決された。これは国際平和支援法と平和安全法整備法からなり、集団的自衛権を認めること、自衛隊の活動範囲や使用できる武器の拡大、有事の際に自衛隊を派遣するまでの国会議論時間を短縮、在外邦人救出や米艦防護を可能にすること、武器使用基準の緩和ならびに上官に反対したばあいの処罰規定の追加などが盛り込まれているという。自衛権というが、核弾頭をつんだミサイルをもった国や地域からそれをもちいての攻撃を受けたときどう防衛するのか、あるいはできるのか難しい問題である。そんなことより攻撃されないことが肝心である。

前の戦争中に開発されたもののなかにもう一つ核兵器がある。核兵器の存在からもう戦争をすることはなくなったといわれたときがあった。しかし、日本では戦後といわれている間、通常兵器による戦争が世界では次々とおこなわれた。さて、イスラム国は国ではない。それで先には地域と書いたのだが、イスラム国への空爆など世界では今も戦闘行為が続いている。また、内戦状況の国もあれば、破綻状態の国もなかなかどうしてある。また南沙諸島の埋め立てなどきな臭いことが多い。

戦後70年ということもあり、あの戦争は一体なんだっただろうと、近代、現代の歴史だけをみてはよくわからぬので、筆者今年は、日本の歴史の本、世界とくにヨーロッパの歴史の本などを随分と読んだ。そのことによって縄文からはじまる歴史の大きな流れのなかで、文明、文化を理解する必要があると感じた。歴史を後からながめているのでその理屈を後付けで考えていることから現在の見地からの意味が考えられる。国際法というが、30年戦争を経てヴェストファーレン体制以降を経験したあたりと、華夷秩序できた地域では感覚が相当に違うのではないだろうか。

さて、20世紀なかごろから始まる計算機の歴史はほぼ戦後の歴史のなかにある。始まりのころに比べれば安価で、高速で、容量も大きくなり、世界中の計算機のほとんどがネットワークにつながっている。また、前回の巻頭言にも国民総背番号制のことにふれたが、この1月からマイナンバー制が始まる。いっそうのセキュリティ確保が必要となる。一方でサイバー攻撃という言葉があるように、この空間での戦争ということがある。研究者の倫理ということが云われるが、計算機科学者、あるいは技術者も自覚が必要であろう。

ところで、筆者は携帯電話であってスマートフォンを持ち合わせていないが、世の中はいわゆるスマホを見ながら歩いている人ばかりで危険極まりない。そして、昨今いわれることにスマートフォンで利用される無料のアプリケーションをダウンロードする人が多いそうである。それらのなかには利用者の情報を収集するものが結構あるそうだ。筆者の感覚ではそれはマルウェアそのものであるが、みんなは適当な対策をこうしているのだろうか。昨今ではコンピュータ利用者にはウイルスという概念が定着してきていると思うがスマートフォン使用者の実態はどうなのか興味深いものがある。自転車使用者が右側を走ったり、二人横に並んで走ったりしているのをよく見かけるが、これらと同様教育が必要なのだろう。

さて、夏のシンポジウムは従来2泊3日程度の泊まり込みで議論してきたのを2012年に日帰りで開催されてから日帰りでの開催を3回おこなった。今年は2泊3日に戻しプログラミングを合宿しながら競う「ハッカソン」をおこなった。成果がどうであったか報告を楽しんでいただきたい。冬の方は発表数、参加者数ともに前回とほぼ同じである。前回にくらべると教育に関連するものが増えている。幹事の皆さんの努力のおかげで開催にこぎつけることができた。お礼申し上げます。末筆ながら、参加者の皆さんの活発な議論を期待する。

2015年12月

プログラミング・シンポジウム委員会
委員長 辻 尚史